

農学生命科学部

第3回 研究推進セミナー

【第12回 発生・生殖生物学研究室コロキウム 共催】

【新学術領域研究 配偶子産生制御 共催】

ヒトデ幼生に探る原始的な免疫応答と「自己」

演者：古川 亮平 先生

岩手医科大学

いわて東北メディカル・メガバンク機構

特命助教



日時：平成26年 7月24日（木）

17:40～19:10

場所：弘前大学コラボ弘大8階大会議室

現在、わたしたちは当たり前のように免疫を担う細胞が存在することを知っていますが、その事実をわたしたちに教えてくれたのがヒトデの幼生です。しかし、その後100年近くもの間、ヒトデの幼生は免疫学の歴史の片隅に忘れ去られた存在でした。

でもヒトデの幼生はまだまだ現役でやれます（多分）。本セミナーでは、免疫細胞発見の経緯やその意義にも触れながら、これまでわたしが行ってきたヒトデ幼生の免疫システムに関する研究についてお話したいと思います。そこから、免疫とは何か？自己とは？種とは？といった生き物らしさに関わる問題について、生殖細胞も登場させながら考えてみたいと思います。

主催：農学生命科学部生物学科 発生・生殖生物学研究室

小林一也（内線3587 kobkyram@cc.hirosaki-u.ac.jp）

共催：研究推進委員会 学部後援会